

## アルツハイマー病特効薬開発の三つの重要なポイント

(1) 2009年 Harvard Medical School の「アルツハイマー病の痴呆と神経劣化の根源的原因は電位依存性カルシウムチャネルからの  $\text{Ca}^{2+}$ 細胞内流入阻害と小胞体の  $\text{Ca}^{2+}$ の涸渇である」とする仮説の発表以来、脳神経細胞内のカルシウムイオンの恒常性の乱れがアルツハイマー病の根本的原因とする多くの論文が直近に至るまで発表されている。

この様によりやく身体の情報伝達の第二メッセンジャーであるカルシウムイオンの恒常性にアルツハイマー病の焦点が当たるようになってきた。

(2) しかし現時点で人工的に  $\text{Ca}^{2+}$ を脳神経細胞に注入することは難しく。これらの仮説の検証が臨床レベルでできない。そのため特効薬開発の大きな壁になりそれらの理論はすべて進展は見られず停滞している。

(3) バナジウム五価イオン水「 $\text{V}^{5+}$ 水」は  $\text{V}^{5+}$ による  $\text{Na}^+$ 、 $\text{K}^+$ -ATPase の活性阻害 (1972年米カントレーの歴史的発見) から起きる古くからよく知られているウワバインなどの速効性強心薬の反応と同様の作用によって全ての細胞の  $\text{Ca}^{2+}$ を急上昇させることが分かっている。

そして生理活性の高いバナジウム五価イオン水は、富士山の伏流水の中に豊富に含まれている。それは海底火山の噴火によって富士山の地層となった玄武岩から長い年月をかけて溶け出したものであり、富士山周辺の住民は有史以来利用している。特に生理活性が高いと言われているバナジウム水が湧出する忍野村周辺は、長寿地域として有名である。

比較的高濃度の「 $\text{V}^{5+}$ 」を飲用することで自然的現象の一つとして簡単に脳神経細胞に  $\text{Ca}^{2+}$ を注入することができる。

そしてアルツハイマー病の大きな壁は取り除かれ、アルツハイマー病研究は一気に進展する。

”アルツハイマー病の特効薬は手近なところにある“

令和元年7月19日

青木 尊臣(独立研究者)